

重層的支援体制の構築に向けた検討事項の全体イメージ

包括的な相談支援体制

- ・相談支援の入口において幅広く相談を受け止めるためにはどのような視点が必要で課題があるか。
- ・受けとめた「分野横断的、制度の狭間」の困りごとに対して、多機関が協働し必要な支援に繋げていくためにはどのような視点が必要で課題があるか。
- ・困りごとを抱えているにも関わらず相談に繋がらない人への支援にはどのような視点が必要で課題があるか。
- ・伴走型支援による継続的なつながりや関わりが求められているがどのような視点が必要で課題があるか。

・地域と相談支援のつながり・ネットワーク強化を通じて以下を実現したい

- ①困りごとを抱えた人の早期発見・早期支援
- ②地域に存在するニーズ・課題の把握・共有
- ③地域（住民）による生活支援体制の強化

- ・相談支援・参加支援の連動を通じて以下を実現したい
- ①個々のニーズに応じたオーダーメイドの社会参加支援
- ②専門職・地域等の連携による重層的な見守り・伴走支援を通じ、本人の状況変化を速やかに把握し、支援につなげるセーフティネットの構築

参加支援

- ・社会参加への支援は、社会的孤立の解消による予防効果や早期発見効果のみならず、個々の多様性を前提に、一人ひとりの可能性に着目し、それが引き出されるよう応援するエンパワーメントの観点からも重要であるが、その実践に当たっては、どのような視点が必要であり、どのような課題があるか。
- ・支援対象者としてどのような人が想定されるか。そのような人の参加支援員を担う人材としてどのような人が適切で、受入先としてどのような場所が活用できるか

・地域と参加支援のつながり・ネットワーク強化を通じて以下を実現したい

- ①多様な社会参加ニーズに応える多様な居場所・就労場所・自己実現の機会の確保（支援者目線）
- ②人手不足の企業・活動団体等の活性化（団体目線）

地域づくりに向けた支援

- ・わが国では、少子高齢化に伴い労働力の供給制約が生じている。高齢人口がピークに達する2040年頃には、地域社会の持続可能性が問われることが予想されることから、「相談支援」や「参加支援」の実施に当たっては、地域共生社会の理念のもと、包括的支援のみならず、地域支援も含め総合的に推進していくことが重要である。福祉の観点からの地域づくりに当たって、どのような視点が必要であり、どのような課題があるか。
- ・地域と行政のつながり・ネットワークを強化するに当たって、どのような視点が必要であり、どのような課題があるか。

重層的支援体制の検討に当たって

①まず最初に「今ある制度・資源」の活用を考える

⇒ 既存制度・資源の洗い出しと評価を実施

②重層のメインテーマは「つながりづくり（連携・ネットワーク・交流の強化）」

⇒ 既存制度・資源の連携・ネットワークの強化